

消化器外科／肝胆膵外科 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム

1. 主要な消化器外科／肝胆膵外科疾患の手術適応、手術手技を説明できる。
2. 主要な消化器外科疾患／肝胆膵外科疾患の術前・術後管理ができる。
3. 急性腹症の初期対応と手術適応の判断ができる。

研修目的

外科臨床および一般臨床に必要な基礎的知識、主要疾患に関する診断・治療の基本的技術を学ぶ。

研修目標

◇ 一般目標

医師としての基本的礼儀、考え方、行動を身につけ、診療（診断、手術、術前後管理）における外科的知識・技能を習得する。全身臓器、他臓器疾患との関連を十分考慮し、全人的医療を習得する。救急事態にも直ちに対応できる判断能力、技術および態度を習得する。

◇ 行動目標

- ・ 入院患者の診療を行ない、指導医と相談して治療方針を決定できる。
- ・ 外来患者の診療を行ない、指導医と相談して応急処置ができる。
- ・ 検査（胸・腹部レントゲン、胸腹部 CT、腹部 US、腹部 MRI、MRCP など）の原理を理解し、適切に検査を選択実行してその結果を解釈できる。
- ・ 以下の外科処置の適応を理解し、正確に実施できる。
無菌操作、創傷処置（止血法、縫合法、抜糸法）、腹腔ドレナージ、経皮経肝胆道ドレナージ（PTBD）、中心静脈栄養法（中心静脈カテーテルアクセス、栄養評価、必要カロリー計算、栄養素配分）、気管内挿管術
- ・ 手術の原理を理解し、以下の手術手技を習得する。
外科消毒法、外科手術一般（第一助手及び術者として執刀できる）、鏡視下手術一般（助手として執刀できる）
- ・ 外科手術の適応と禁忌が理解できる。
- ・ 緩和ケア・終末期医療と一般の医療の共通点および相違点を理解する。

◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

- ・ 食道癌 2-3 例
- ・ 胃癌 10-15 例
- ・ 大腸癌 15-20 例
- ・ 肝胆膵悪性疾患 3-5 例
- ・ 胆嚢結石症 30-40 例
- ・ そけいヘルニア 15-20 例

研修方略

外科手技（縫合・抜糸・消毒・動脈静脈ルート確保）、検査、術前診断法、疾患の治療方針、手術法の原理、術後管理法を、指導医の指導のもと、日々の臨床研修で実習する。

研修評価

全ての診療行為の評価は、研修期間中の実行と観察で行なうが、経験症例の中の1例についてはレポートを提出してもらおう。EPOCでも評価を行う。

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	回診、手術	手術、術後管理	回診
火	回診、手術	手術、術後管理	回診、抄読会（2週目） 術前カンファレンス 手術症例検討会（3週目）
水	回診、手術	手術、術後管理	回診
木	回診、手術	手術、術後管理	回診
金	回診、手術	術後管理	回診、消化器内科とのカンファレンス

指導責任者および指導医

指導責任者： 中野 徹
指導医： 柴田 近
// : 片寄 友
// : 小川 仁
// : 児山 香
// : 山本久仁治
// : 近藤典子
// : 長尾宗紀
// : 高見一弘
// : 安本明浩
// : 三田村篤
// : 佐瀬友彦
// : 三浦智也
// : 澤田健太郎
// : 桜井博仁
// : 伊勢一郎